

# 1 十勝管内市町村の概要

帯 広 市 おびひろし



人口（R2国調） 総数：166,536人 男：79,623人 女：86,913人  
面積 619.34km<sup>2</sup>  
市役所所在地 北海道帯広市西5条南7丁目1番地  
郵便番号 080-8670  
電話番号 (0155)24-4111  
ホームページ <https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/>  
Eメール -  
市町村コード番号 012076  
市町村類型 IV-1  
交通機関 根室本線帯広駅から徒歩10分、帯広空港からバスで40分

## 【地 勢】

帯広市は、北緯42度、東経143度に位置する十勝平野の中心都市である。この十勝平野は北海道三大河川の一つである十勝川の扇状地を主体とした東西約70km、南北約120kmに及び、わが国の食料基地となっている。帯広市の気象は、夏は暑く、冬は寒い大陸性気候で四季の変化に富む。年間降水量は、わが国最少に属し、また、年間日照時間は、2,000時間以上と多く、冷温帯気候にあって明るく豊かな環境に恵まれた都市である。

## 【歴 史】

明治16年、依田勉三の率いる晩成社移民団13戸27人がはじめてこの地に開拓の鋤を入れた。明治26年、河西外二郡各村戸長役場が設置され、同35年には2級町村制が施行され、また、従前の下帯広村から帯広町と名称が改められた。また、同38年には帯広・釧路間、同40年には帯広・旭川間の鉄道が開通し、この頃から十勝の中心都市としての性格を強め、大正3年の第一次世界大戦による雑穀景気により、北海道の畑作中心地帯広の経済的基盤が固められた。この直後の同4年に帯広町は伏古村の一部を併合して1級町村制を施行し、昭和8年、帯広は北海道で7番目の市となった。同32年の川西・大正両村との合併により、都市機能が集積する市街地と広大な農村地域を併せ持つ都市となった。その後、農業の生産性の向上や市街地を囲む帯広の森の造成、鉄道都心部の大改造など計画的にまちづくりを進めてきている。令和2年には第七期帯広市総合計画を策定し、将来のまちの姿を「あおお ひろびろ いきいき 未来を信じる 帯広」と掲げ、市民とともにまちづくりを進めており、令和4年には開拓140年市制施行90年を迎えた。

## 【市名の由来】

アイヌの人たちがこの地を「オベレベレケブ」（川口がいくつにも裂けている川）と呼んでいたものが転訛したものといわれ、帯広の漢字を当てたものである。

## 【市章の意味】

両側に北海道の「北」の字とオビヒロの「ヒ」の字をかねてあわし、下に「口」を、中央には十勝の中心都市として飛躍をつづける帯広市を表徴して「オ」の字を図案化し全体を通じて北海道の帯広をあらわしたものである。

## 【市花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	クロユリ	S41.11.10
樹木	シラカバ	〃
鳥	ヒバリ	〃

(帯広観光協会決定)

## 【市政のあゆみ】

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 昭和 8 年 市制施行                           | 昭和 57 年 開基100年市制施行50年記念式典、<br>帯広百年記念館完成    |
| 〃 32 年 川西、大正両村と合併、上水道完成               | 〃 58 年 公害防止センター完成                          |
| 〃 33 年 市庁舎完成、市立南商業高校完成                | 〃 60 年 帯広の森体育館・スピードスケート場完成                 |
| 〃 34 年 市立南商業高校開校                      | 〃 61 年 総合福祉センター完成                          |
| 〃 37 年 市民会館完成、帯広工業団地造成、<br>交通安全都市宣言   | 〃 62 年 畜産研修センター完成、<br>帯広の森アイスアリーナ・第二アリーナ完成 |
| 〃 38 年 動物園開園                          | 〃 63 年 健康スポーツ都市宣言                          |
| 〃 41 年 大分県大分市と観光文化姉妹都市提携              | 平成 元 年 帯広市民文化ホール開館、<br>暴力追放・防犯宣言           |
| 〃 43 年 スワード市（米国アラスカ州）と国際姉妹<br>都市提携    | 〃 2 年 帯広の森野球場完成                            |
| 〃 51 年 中央公園完成                         | 〃 3 年 核兵器廃絶平和都市宣言                          |
| 〃 53 年 静岡県松崎町と開拓姉妹都市提携、<br>夜間急病センター完成 | 〃 4 年 新市庁舎完成、<br>開基110年市制施行60年記念式典         |
| 〃 56 年 新帯広空港開港                        | 〃 5 年 帯広圏地方拠点都市地域指定                        |
| 〃 57 年 徳島県徳島市と産業文化姉妹都市提携、             |  |

### 【市政のあゆみ】

- |   |  |
|---|--|
| 平成 7 年 とかちプラザ、農業技術センター完成  | 平成 19 年 帯広市・川西村・大正村合併50周年記念式典、ばんえい競馬帯広市単独開催                        |
| " 8 年 鉄道連続立体交差供用開始、<br>帯広の森市民プール、森の交流館・十勝完成                                   | " 20 年 環境モデル都市認定、平和市長会議加盟  |
| " 9 年 帯広の森弓道場・アーチェリー場完成   | " 21 年 明治北海道十勝オーバル完成、<br>市民ギャラリー完成                                 |
| " 10 年 みどりと花のセンター完成、<br>生活館（ふくろうの館）完成   | " 22 年 帯広の森・はぐくむ完成<br>観光交流拠点施設「とかちむら」オープン                          |
| " 11 年 新消防庁舎完成、<br>帯広駅北地下駐車場完成  | " 23 年 北海道フード・コンプレックス国際戦略総合<br>特区の指定、管内19市町村で十勝定住自立<br>圏を形成        |
| " 12 年 帯広の森テニスコート完成、<br>朝陽市（中国遼寧省）と国際友好都市提携                                   | " 24 年 開拓130年市制施行80年記念式典   |
| " 13 年 帯広の森スポーツセンター完成   | " 25 年 十勝19市町村でバイオマス産業都市に認定  |
| " 14 年 北愛国交流広場完成、<br>開拓120年市制施行70年記念式典、<br>帯広の森球技場完成                          | " 26 年 新休日夜間急病センター完成   |
| " 15 年 駅北多目的広場完成  | " 27 年 新学校給食センター完成   |
| " 16 年 光南小学校屋内プール完成、<br>WRC(世界ラリー選手権)が十勝で初開催                                  | " 28 年 とかち広域消防局開所  |
| " 17 年 とかち大平原交流センター完成   | " 29 年 とかち帯広空港旅客ターミナルビル増築、<br>国内線・国際線の同時受入れ開始<br>ばんえい競馬帯広市単独開催10周年 |
| " 18 年 新図書館完成、保健福祉センター完成、<br>市民活動交流センター開館、<br>マディソン市（米国ウィスコンシン州）と<br>国際姉妹都市提携 | " 30 年 帯広駅前バスターミナル「バスターミナル<br>おびくる」供用開始                            |
|   | 令和 元年 とかち帯広空港旅客数2000万人到達   |
|   | " 2 年 帯広市総合体育館「よつ葉アリーナ十勝」供用開始                                      |
|   | " 4 年 開拓140年市制施行90年記念式典  |

### 【行政施策重点事項】

将来のまちの姿の実現に向けて、4つの目標を掲げ、まちづくりを進めている。

- ともに支え合い、子どもも大人も健やかに暮らせるまち
- 活力とにぎわいと挑戦があるまち
- ともに学び、輝く人を育むまち
- 安全・安心で快適に暮らせるまち

### 【行政管理の特色】

帯広市においては、これまで、財務会計、文書管理、庁内情報共有等の分野における事務の0A化や、歳入歳出の両面からの財政構造の改革、民間の力を活用しながらの行政運営を推進し、事務処理の能率向上と合理化に努めてきた。

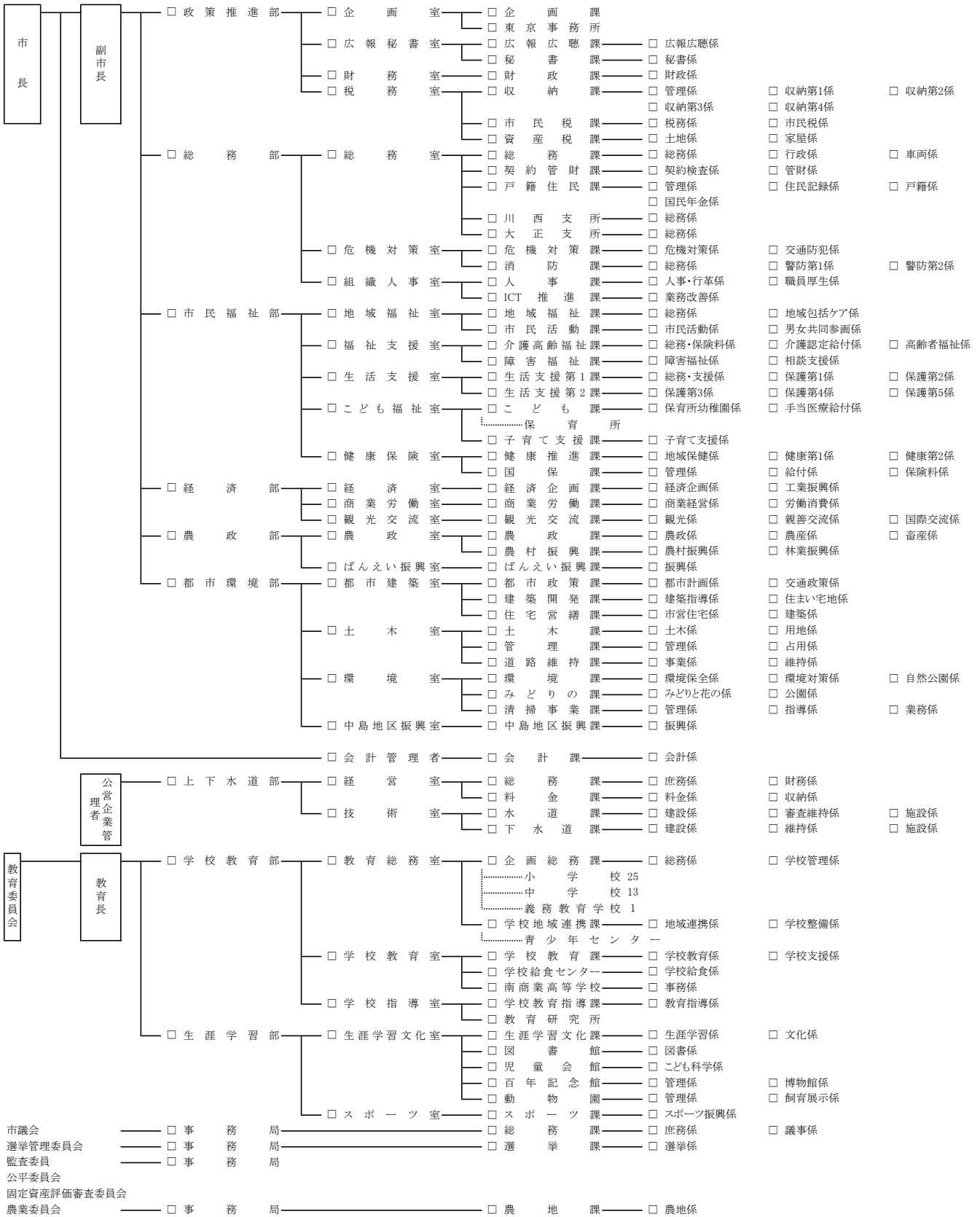
また、「市民の知る権利の尊重」や「行政の説明責任」を明記した情報公開条例を平成12年度より施行するとともに、開かれた市政をより一層推進するため、行政情報の発信を行っている。

平成16年度からは「第二次行財政改革」、平成20年度からは「新たな行財政改革」、平成25年度からは「行財政運営ビジョン」に基づき、社会経済情勢の変化や厳しい財政環境に対応し、徹底した行政のスリム化、持続可能な財政構造の確立、時代の変化に対応した行政運営の構築、市民協働の推進、質の高い行政サービスの提供などをすすめ、分権型社会における自主・自律のまちづくりに取り組んでいる。

### 【主な公共施設】

- とかちプラザ … 市民の交流や学習を行う「生涯学習センター」と産業の活性化を目指した「定住交流センター」機能を併せ持った施設
- 図書館 … 一般書、児童書、郷土資料などの資料と、DVD・ビデオ等の視聴覚資料を所蔵しており貸出や閲覧、視聴をすることができる。
- 緑ヶ丘公園 … 公園内に帯広百年記念館や、動物園、みどりと花のセンター、児童会館、野草園、道立美術館等の各種施設が設置され、市民の憩いの場として広く利用されている。
- その他 … 帯広市民文化ホール、総合体育館（よつ葉アリーナ十勝）、学校給食センター、とかち帯広空港、休日夜間急病センター、生活館、帯広川下水終末処理場、福祉センター、稲田浄水場、コミュニティセンター、道路車両センター、畜産物加工研修センター、グリーンプラザ、畜産研修センター、帯広の森体育館、帯広の森陸上競技場、帯広の森弓道場・アーチェリー場、帯広の森アイスアリーナ、帯広の森研修センター、農業技術センター、帯広の森市民農園サラダ館、帯広の森市民プール、帯広の森野球場、帯広の森テニスコート、帯広の森スポーツセンター、帯広の森球技場、ポロシリ自然公園オートキャンプ場、とかち大平原交流センター、保健福祉センター、市民活動交流センター、明治北海道十勝オーバル（帯広の森屋内スピードスケート場）、帯広の森・はぐくむ

【行政組織機構図】



# 音 更 町

おとふけちょう



人口（R2国調） 総数：43,576人 男：20,630人 女：22,946人  
 面積 466.02km<sup>2</sup>  
 役場所在地 北海道河東郡音更町元町2番地  
 郵便番号 080-0198  
 電話番号 (0155)42-2111  
 ホームページ <https://www.town.otofuke.hokkaido.jp/>  
 Eメール [mailbox@town.otofuke.hokkaido.jp](mailto:mailbox@town.otofuke.hokkaido.jp)  
 市町村コード番号 016314  
 市町村類型 V-2  
 交通機関 根室本線帯広駅からバスで20分

## 【地 勢】

音更町は十勝平野の中心部に位置し、町の東端を南北に走るオサルシナイ丘陵地帯を除いては、概ね平坦地で、音更川を中央に土幌川、然別川がそれぞれ十勝川に注ぎ、水利の便に恵まれ、地味もよく、各種農作物に適し、全道でも指おりの穀倉地帯である。

## 【歴 史】

明治12年、大川字八郎がアイヌ民族との交易を目的として音更定住者となったことに始まり、明治29年には岐阜、富山、宮城の各県から多くの団体移民が移住し、移住者は飛躍的に増加した。

音更町は、明治34年下帯広ほか11村戸長役場から分離して、音更ほか2村戸長役場を設置したのに始まる。明治38年9月、開成橋（後の河西橋、現在の十勝大橋の前身）が架けられ、道路も整備されるなど、村としての形態はしだいに整い、翌39年4月に然別・東士狩の両村をあわせて村名を音更村と改め、2級村制を施行した。大正10年4月に鹿追、上川（現在の土幌及び上士幌）の両村を分村するとともに1級町村制をしき、昭和28年7月町制を施行した。また、大正8年に村章を設定し昭和45年に現行の町章に改めるとともに、町旗、町歌及び音更音頭を制定、更に昭和49年に町民憲章を制定した。

現在、人口約4万3千人を超える町に成長し、北海道屈指の町として発展を続けている。

## 【町名の由来】

音更とは、アイヌ語で「オトプケ」といい、髪の毛が風に吹き乱れる様子を意味している。町には、音更川・土幌川・然別川の三大河川と大小数多くの河川が流れており、この川の流れを髪の毛の様子にたとえたといわれている。

## 【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	スズラン	S55.9.12
樹木	シラカバ	〃
鳥	未制定	

## 【町章の意味】

音更の頭文字の抽象デザインで若葉を表現、未来に向かって力強く躍進する町勢を象徴したものである。

## 【町政のあゆみ】

明治 34 年 音更ほか 2 村戸長役場開設	平成 12 年 音更町温水プール完成、すずらん大橋開通、開町100年
大正 10 年 1 級村制を施行	〃 13 年 第 4 期音更町総合計画策定
昭和 38 年 町制施行	〃 15 年 十勝エコロジーパークオープン
〃 49 年 木野市街に役場支所設置	〃 17 年 音更町希望が丘野球場オープン、宝来大橋開通
〃 52 年 役場庁舎全面改築	〃 18 年 音更町まちづくり基本条例制定
〃 60 年 岩手県軽米町と姉妹都市提携	〃 20 年 ふるさと応援寄附制度制定
〃 62 年 音更町公共下水道供用開始	〃 22 年 翠柳大橋開通
〃 63 年 十勝中央大橋開通	開町110年
平成 2 年 開町90年	〃 23 年 戸籍電算化
〃 3 年 サンドームおとふけ（総合体育館）完成、平原大橋開通	〃 25 年 新火葬場完成
〃 6 年 音更町武道館完成	〃 29 年 音更町サッカー場完成
〃 7 年 北十勝消防事務組合消防防災庁舎完成	令和 元 年 役場庁舎増築棟完成
〃 8 年 十勝大橋開通	〃 2 年 道の駅ガーデンスパ十勝川温泉オープン
〃 9 年 むつみアムニティパークオープン	〃 3 年 開町120周年
〃 10 年 すずらんど（ふれあい交流館）完成	〃 4 年 道の駅おとふけ「なつぞらのふる里」オープン
〃 11 年 音更町図書館完成	〃 5 年 音更町生涯学習センター設置

**【行政施策重点事項】**

令和3年度から令和12年度まで（10年間）の「第6期音更町総合計画」を策定し、将来像である「みんなが住みよい 選ばれるまち おとふけ」を目指してまちづくりに取り組んでいる。

**（基本目標）**

- 1 経済の好循環でつくる元気あふれるまち
- 2 都市と自然が共生する持続可能な住みたいまち
- 3 生きる力、支える力を育むまち
- 4 健やかで心ふれあう、やさしさに満ちたまち
- 5 みんなが参加できる協働のしくみでつくるまち

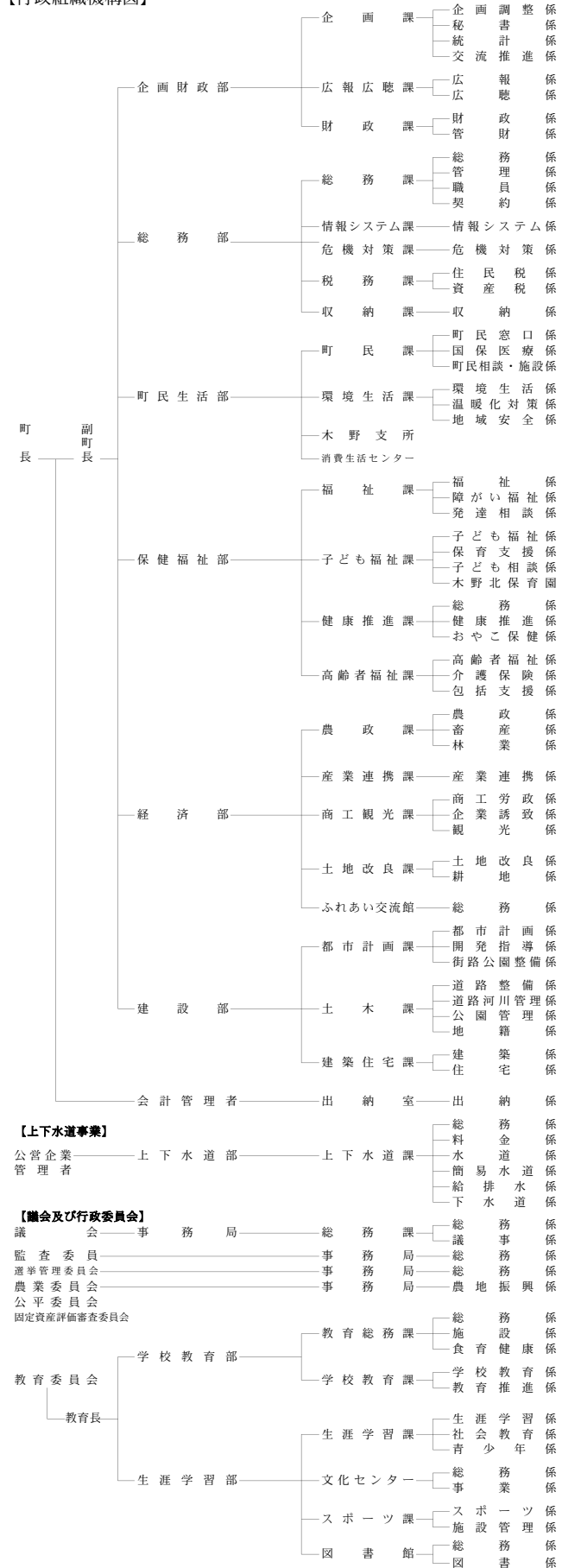
スクールバスなど現業部門の民間委託、公用車の集中管理等を実施しているほか、平成12年度に庁舎内LANを整備し、グループウェア、財務会計システム等を導入、昭和58年度から運用している住民基本台帳システムを平成21年度に新システムに変更、平成23年度に戸籍電算化、および住民基本台帳カードを利用して、コンビニエンスストアにある多機能端末機で、住民票の写しと印鑑登録証明書を取得することができる「コンビニ交付」を開始するなど、電算化を進めることで行財政運営の効率化を図っている。

また、市街地が分散しているため、木野市街に役場支所を設置し、住民へのサービス向上に努めているほか、支所の機能を充実させるため、電算端末機を設置している。

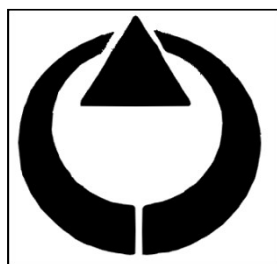
**【主な公共施設】**

1. 教育施設…
  - 保育所等(18)、小学校(11)、中学校(5)、道立高校(1)、短期大学(1)
2. 文化体育施設…
  - 文化センター、野球場、軽スポーツセンター、総合体育館、武道館、図書館、温水プール、サッカー場、生涯学習センター
3. 厚生施設…
  - 老人保健福祉センター、総合福祉センター
4. その他…
  - 十勝が丘公園、音更霊園、火葬場、コミュニティセンター

**【行政組織機構図】**



# 士 幌 町 しほろちょう



人口（R2国調） 総数：5,848人 男：2,891人 女：2,957人  
 面積 259.19km<sup>2</sup>  
 役場所在地 北海道河東郡士幌町字士幌225番地  
 郵便番号 080-1292  
 電話番号 (01564)5-2211  
 ホームページ <https://www.shihoro.jp/>  
 Eメール [shihoro@shihoro.jp](mailto:shihoro@shihoro.jp)  
 市町村コード番号 016322  
 市町村類型 II-0  
 交通機関 根室本線帯広駅からバスで40分

## 【地 勢】

士幌町は十勝平野の中央部やや北寄りに位置し、面積259.19km<sup>2</sup>、西部の山岳地帯、東部の丘陵地を除き全町的に概ね平坦であり、内陸型気候で、冬季の寒気は厳しいが積雪は比較的少ない。中央を貫流する音更川流域には町面積の55%を占める耕地が展開し、そのほとんどは火山灰性土壌で地味は十勝管内中程度である。十勝の中心都市、帯広まで国道241号線30kmで結ばれ、社会、経済両面から帯広市とのつながりは大きい。

## 【歴 史】

士幌町分村の母体である音更町の開拓は、明治12年大川宇八郎の入地に始まり、同31年美濃開墾合資会社移民団43戸が現中士幌地区へ入植、以後岐阜県、宮城県をはじめとする多くの集団移民団が相次ぎ、帯広、釧路間の鉄道開通とともに、奥地を目指す移民が急激に増加、大正10年「川上村」の呼称で分村した。同14年鉄道が士幌駅まで開通し、同15年上士幌駅まで開通したことにより、上士幌市街を中心とした経済圏が拡大され、昭和6年上士幌村を分村した。同8年池田町から下居辺ワッカクネップを編入し、現士幌町域が形成された。以来純農村として意欲的な町づくりが進められ、同37年町制を施行した。その後、経済構造の変革等に伴い過疎化現象が進み、農業の将来に暗影を投げかける時期もあったが、寒冷地における厳しい自然条件に適合した農業の確立と、地場産業に密着した食品工業コンビナートの建設をはじめ、一連の農業構造改善事業を推進し、更に住民の福祉を最重点とする施策を掲げ、住みよい理想郷づくりにまい進している。

## 【町名の由来】

「しほろ」はアイヌ語の「シュウウォロー」（広大な土地の意味）から転訛して名付けられたものである。

## 【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	スズラン	S56.9.28
樹木	カシワ	〃
鳥	カッコウ	〃

## 【町政のあゆみ】

大正 10 年 音更町から分村	平成 7 年 士幌中央中学校校舎完成
〃 15 年 川合村から一部を編入、士幌村と改称	〃 9 年 ケアハウス増築完成（士幌愛風苑）
昭和 37 年 町制施行	〃 11 年 十勝北部地区普及センター移転新築
〃 46 年 国保病院新築	〃 13 年 士幌町国民健康保険病院完成、士幌町総合福祉センター完成、しほろ温泉「プラザ緑風」完成、開基80周年記念式典挙行
〃 47 年 特別養護老人ホーム、農業技術研修所、町営総合グラウンド完成	〃 14 年 士幌町立特別養護老人ホーム完成
〃 56 年 役場庁舎多目的研修集会施設完成	〃 15 年 士幌町食品加工研修センター完成
〃 58 年 北十勝消防事務組合士幌消防署完成	〃 19 年 士幌町認定こども園完成
〃 63 年 開拓90周年記念式典挙行	〃 21 年 士幌町立高等学校特別専攻科閉科 まちづくり基本条例制定
平成 元 年 東京連絡事務所開設	〃 23 年 開町90周年記念式典挙行
〃 2 年 士幌高原学習体験の里完成	〃 29 年 道の駅「ピア21しほろ」移転完成
〃 3 年 開基70周年記念式典挙行	令和 3 年 開町100周年記念式典挙行
〃 4 年 ケアハウス、デイサービスセンター開設	
〃 5 年 士幌町総合研修センター完成	
〃 6 年 岐阜県美濃市と姉妹都市提携	

【行政施策重点事項】

住民一人ひとりがゆとりと豊かさを実感して暮らせる、安心と快適なまちをめざし、住民と行政が共に協力し行動する「協働のまちづくり」を進めていきます。

1. 安心・安全・生きがい実感  
 少子高齢化が進むなか、町内に住む子ども達、お年寄りそして障がいのある方、全ての人々が安心・安全、生きがいを実感できる快適な暮らしの創造を図ります。
2. 自主・自立をめざして  
 自治行政を取り巻く環境が多様化するなか、町民と行政がしっかり協働し、自主・自立の町づくりをめざします。
3. 農業を核として  
 農業を核とする地域産業の総合力を拡大するため、新たな視点を持ってアグリビジネスの展開をはかり、活力ある町づくりに取り組みます。

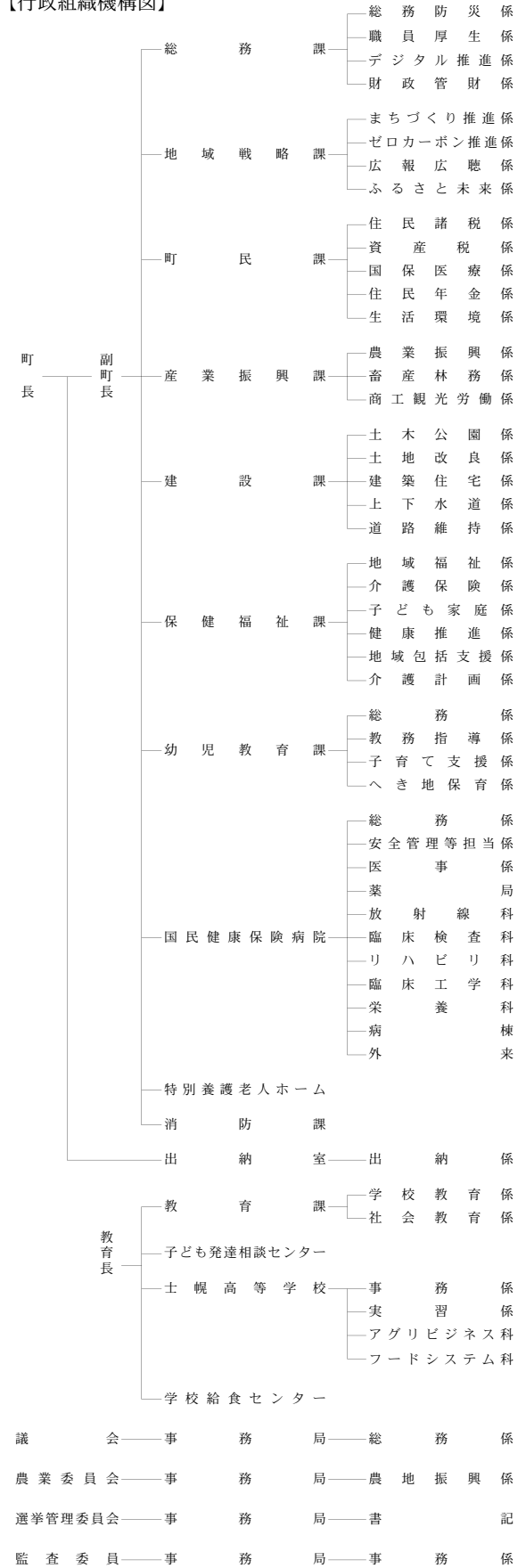
【行政管理の特色】

事務処理の効率化…電算処理は、住民基本台帳、財務会計をはじめ、総合的なシステムを導入している。

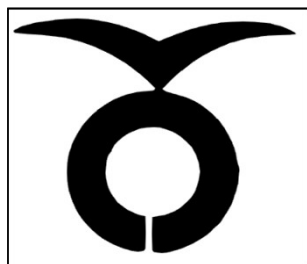
【主な公共施設】

小学校(3)、中学校(1)、高等学校(1)、学校給食センター、こども発達相談センター、コミュニティーセンター、総合研修センター(体育館、図書館、郷土館、大ホール、工芸室他)、屋内ゲートボール場、地区集会施設(11)、へき地保育所(2)、国保病院、特別養護老人ホーム、火葬場、勤労青少年アパート、勤労者会館、土幌高原ヌプカの里、チセ・フレップ(北海道大学生と地域青少年の交流宿泊施設)、道の駅ピア21しほろ、下水道終末処理場(2)、簡易水道浄水場(6)、リサイクルセンター、伝統農業保存伝承館、総合福祉センター、道の駅しほろ温泉、農畜産物加工研修施設、認定こども園、土幌消防署、中土幌出張所

【行政組織機構図】



# 上 土 幌 町 かみしほろちょう



人口（R2国調） 総数：4,778人 男：2,343人 女：2,435人  
 面積 696.00km<sup>2</sup>  
 役場所在地 北海道河東郡上土幌町字上土幌東3線238番地  
 郵便番号 080-1492  
 電話番号 (01564)2-2111  
 ホームページ <http://www.kamishihoro.jp/index.php>  
 Eメール [yakuba@town.kamishihoro.hokkaido.jp](mailto:yakuba@town.kamishihoro.hokkaido.jp)  
 市町村コード番号 016331  
 市町村類型 II-0  
 交通機関 根室本線帯広駅からバスで50分

## 【地 勢】

上土幌町は十勝平野の最北部、大雪山のふもとに位置し、遠くは上川、網走両支庁に接し十勝管内5町に隣接し、面積695.87km<sup>2</sup>を有し、このうち約70%が大雪山国立公園と国有林となっている。山麓の火山灰質土壌と内陸の気象のため、気温差が激しく降雨・降雪は少ない。

## 【歴 史】

明治25年、十勝監獄の囚徒の斧によって開拓入地者の先鞭がなされ、明治34年帯広ほか11村戸長役場の管轄下に始まり、和人の入植は同40年富山県人安村治高丸の移住が始まりである。その後、北海道開発の雄図を抱いて往来する者が相次ぎ、大正10年には川上村に分割編成、同14年川合村より居辺の一部を編入、続いて大正15年村名を土幌村と改称し、村勢の急激な膨張により昭和6年4月土幌村より分村、2級町村制を施行、村名を上土幌村とした。

昭和28年8月、十勝川水系糠平電源開発糠平ダム建設の着工により村勢は充実の期を示し、同29年4月1日に町制施行となった。以来、児童会館をはじめ町営浴場やスポーツセンター、町民野球場など数々の施設が完成し、また、大雪山国立公園に含まれる北部一帯とナイタイ高原牧場を中心に観光地としても発展してきた。中でも毎年、夏と冬の2回開催されるバルーンフェスティバルは、全国的にも知名度が高い。

## 【町名の由来】

アイヌ語のシュウウォロー（土幌）が語源で、土幌村から分村の際、川の上流に位置するので土幌の母村名に「上」の字を冠したものである。

## 【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	すずらん	S56.8.3
樹木	しらかば	〃
鳥	かつこう	〃

## 【町章の意味】

上土幌の「上」を図案化したもので、上部は大空に舞上がる力強い翼と大地に根をおろす若葉を意味する。下部の円形は町民の融和と団結を表わし、未来に大きく伸びゆく姿を象徴したものである。

## 【町政のあゆみ】

昭和 6 年 土幌村より分村し上土幌村と呼称	平成 9 年 健康増進センター完成
〃 29 年 町制施行	〃 10 年 上土幌ゴルフ場オープン
〃 30 年 糠平ダム竣工、糠平発電所送電開始	〃 12 年 学校給食センター完成
〃 42 年 中学校統合、児童会館落成	〃 13 年 開町70周年記念式典挙行、 第4期総合計画策定
〃 43 年 新町章制定	〃 15 年 地域遺産フェスティバル開催
〃 45 年 町民憲章制定	〃 21 年 源泉かけ流し全国温泉サミット開催
〃 50 年 北十勝2町清掃工場完成	〃 22 年 上土幌中学校校舎改築
〃 55 年 生きがいセンター、葬斎場完成	〃 23 年 開町80周年記念式典挙行 第5期総合計画策定
〃 56 年 開町50周年、役場庁舎、消防庁舎完成、 新総合計画策定	〃 25 年 ひがし大雪自然館完成
〃 57 年 山村開発センター、糠平大橋完成	〃 27 年 認定こども園完成
〃 58 年 町営公衆浴場温泉化	〃 29 年 生涯学習センター改築
平成 2 年 糠平温泉文化ホール完成	〃 30 年 交通ターミナル完成
〃 3 年 農業技術研究センター、 生涯学習センター完成、 開町60周年記念式典挙行	令和 元 年 ナイタイテラス完成
〃 4 年 第3期総合計画策定、航空公園完成	〃 2 年 道の駅かみしほろ完成
〃 5 年 単身者住宅完成	〃 年 上土幌シェアオフィス完成
〃 6 年 全国まちづくり研修会上土幌大会開催	〃 3 年 消防庁舎完成
〃 7 年 第12回熱気球日本選手権開催	〃 年 開町90周年功労者表彰式挙行
〃 8 年 公共下水道供用開始、健康増進センター着工	〃 年 第6期総合計画策定
〃 9 年 高齢者生活福祉センター、	〃 4 年 につぼうの家完成
	〃 5 年 世界気候エネルギー首長誓約会議国際ワー クショップ開催



**【行政施策重点事項】**

令和3年に第6期総合計画を策定し、「未来につなぐ 笑顔かがやく 元気まち上土幌」をまちづくりのテーマに諸施策を進めている。

(基本計画)

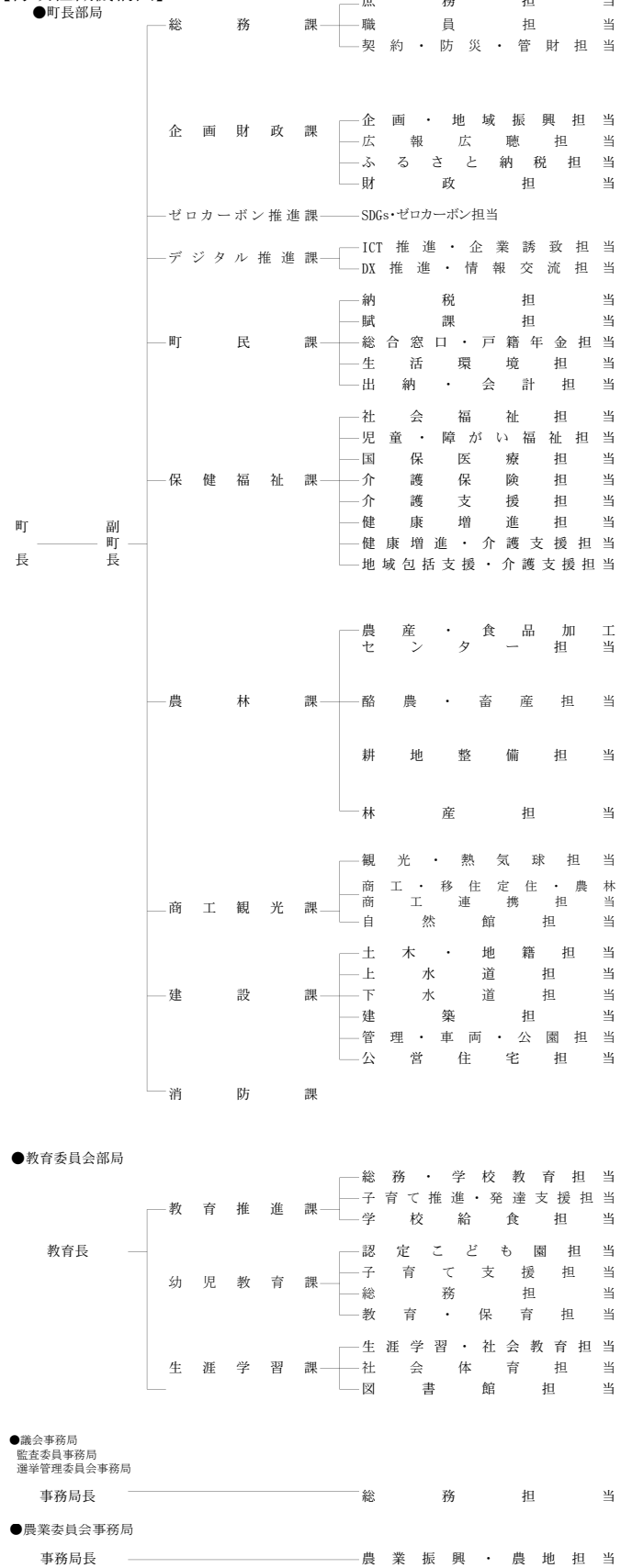
1. 活力ある産業でにぎわいのあるまちづくり
2. だれもが健康で活躍できるまちづくり
3. だれにも優しく快適なまちづくり
4. 人と自然が調和したまちづくり
5. だれもが学び続けられるまちづくり
6. 支え合いとおもいやりのまちづくり

**【行政管理の特色】**

1. 迅速で効率的な事務事業を行うため、庁舎内LANの導入による情報ネットワークシステムを確立し、併せて情報漏洩の防止に対するセキュリティ強化を実施している。
2. 行政組織は、機構改革及びスタッフ制導入により、地方分権や財政危機などの時代の変化や多様化する住民ニーズに対応できる柔軟で横断的な行政組織・機構を目指している。

1. ひがし大雪自然館・・・東大雪の自然や歴史、動植物などの展示と観光情報を発信している。
2. ナイタイ高原牧場・・・広大な緑のジュータンに約3,000頭もの牛が放牧されている。
3. その他・・・スポーツセンター、野球場、山村開発センター、生涯学習センター、葬斎場、北十勝2町清掃工場、糠平温泉文化ホール、農業技術研究センター、航空公園、下水道管理センター、高齢者生活福祉センター、健康増進センター、認定こども園、交通ターミナル、ナイタイテラス、道の駅かみしほろ上土幌シェアオフィス  
にっぽうの家

**【行政組織機構図】**



# 鹿 追 町 しかおいちょう



人口（R2国調） 総数：5,266人 男：2,572人 女：2,694人  
 面積 404.70km<sup>2</sup>  
 役場所在地 北海道河東郡鹿追町東町1丁目15番地1  
 郵便番号 081-0292  
 電話番号 (0156)66-2311  
 ホームページ <http://www.town.shikaoi.lg.jp>  
 Eメール -  
 市町村コード番号 016349  
 市町村類型 II-0  
 交通機関 根室本線新得駅から車で25分

## 【地 勢】

鹿追町は北海道の中心大雪山系にある大雪山国立公園の南、十勝平野の北西部に位置し、町の北側はウペベサンケヌプリ、ピシカチナイ山、ヌプカウシヌプリ等の諸山がそびえ山岳地帯となっている。南下するに従って平坦で同公園内にある然別湖などを水源とする然別川が北から南に貫流し、この地域は農耕適地となっている。気候は大雪山系の山麓にあって、気象条件は厳しく、山間部を除いた大半は内陸性気候である。

## 【歴 史】

明治38年、東京の山田松次郎が入地したのが和人の始まりで、その後本州からの移住民が相次ぎ開拓が急速に進められ、大正2年、今の下市街に駅通がおかれ帯広からの道路が開削されて市街地を形成する。大正10年、音更村から分村2級村制を施行し、村名を「鹿追村」とした。昭和3年、北海道拓殖鉄道が開通、同9年大雪山国立公園が指定され林豊洲などの努力で然別湖地帯が編入された。同25年、開基30周年記念式典が行われ、国保事業の町立病院の開設、然別発電所の建設、同32年に陸上自衛隊の駐屯をみ、同34年に町制が施行された。同39年に冷害凶作に見舞われ豆作中心の農業経営から酪農主体の根菜を取り入れた寒地農業確立へ移行し、乳牛1万6,500頭の酪農村としての町営乳牛育成牧場の造成に畑作地帯総合土地改良事業の促進により大農村建設、食料基地として躍進を続けるとともに、「生きて（経済の発展）生きる（福祉の増進）」町づくりを基本テーマとし、21世紀に臨んで「安全と安心」の中で生活のできる飛躍・発展の町づくりの諸施策が着実に進められている。

## 【町名の由来】

「鹿追」は、アイヌ語の「クテクウシ」を和訳したもので、鹿を追う（昔アイヌは、この土地の谷間に柵を設けて鹿の群を追い込み、簡単に捕らえたといわれている）という意味である。

## 【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	シャクナゲ	S60.4.1
樹木	モミジ	〃
鳥	カッコウ	〃

## 【町章の意味】

中央に鹿追の頭文字の「鹿」を入れ、本町の主産物である馬鈴薯の花で町民をあらわし、これを囲む円で太陽を型どり協力の輪（和）を表したものである。

## 【町政のあゆみ】

昭和 34 年 町制施行	平成 12 年 瓜幕活性化施設(ウリマックホール完成)、 鹿追町開町80年記念式典・記念事業各種
〃 53 年 鹿追自然ランド完成	〃 13 年 広域総合交流促進施設・子育て交流館オープン
〃 57 年 然別川災害復旧事業完成	〃 15 年 ひまわりセンター、道の駅しかおい完成
〃 60 年 ストニィ・ブレイン町(カナダアルバータ州) と姉妹都市提携	〃 16 年 一般廃棄物最終処分場完成
〃 63 年 「年輪の村」構想基本計画樹立	〃 18 年 道の駅うりまくオープン
平成 元 年 自治省のリーディングプロジェクト開催 事業指定(長寿社会対策)	〃 19 年 環境保全センター供用開始
〃 5 年 「年輪の村」事業(町民ホール、神田日勝 記念館、トリムセンター)完成、 道道鹿追糠平線湖畔トンネル開通	〃 20 年 農業振興センター完成 うりまく夢創造館完成
10 年 健康温水プールしかおい完成、 ピュアモルトクラブハウス完成	〃 21 年 鹿追町制施行50年記念式典・記念事業各種
	〃 22 年 鹿追町開町90年記念式典・記念事業各種 ストニィブレイン町姉妹提携締結25周年
	〃 27 年 ストニィブレイン町姉妹提携締結30周年
	〃 28 年 瓜幕バイオガスプラント供用開始
	〃 29 年 しかおい水素ファーム開所
	〃 31 年 鹿追町国際交流センター平成館オープン
	令和 元 年 鹿追町立認定こども園しかおい新園舎完成

【行政施策重点事項】

令和2年度から令和9年度の8年間を計画期間とする「第7期鹿追町総合計画」が策定され、「愛・夢・笑顔あふれる未来へ～支え合うまち♡しかおい～」を町の将来像とし、バイオマスによる資源循環型農業の確立や豊かな自然環境を活かした観光の展開、幼小中高一環教育など特色ある教育の導入、そして2013年には十勝で唯一のジオパークとして認定を受けるなど唯一無二のまちづくりを進めている。

1. 子育てを支え合い、多世代がつながり、心がふれあう福祉
2. お互いの価値観を認め合い、確かな自分づくりを育む教育
3. 「ひと・もの・こと」がつながり、豊かで魅力的な産業
4. 地域がつながり、環境を守り、安心して暮らせるまち

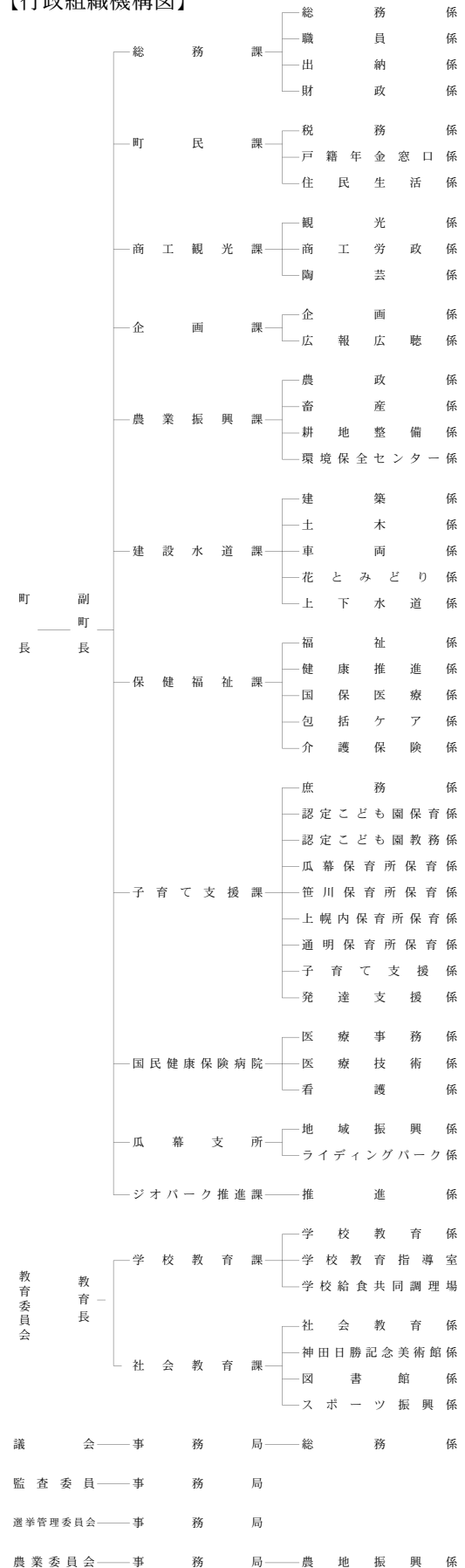
【行政管理の特色】

1. し尿処理やバス運転業務、学校用務員等の民間委託をはじめ、行政事務のO/A化等により合理化を図っている
2. 職員の能力開発のため、各種研修機関での研修や海外研修等を積極的に行なっている
3. 行政運営の効率化と行政組織フラット化の上、弾力運営の趣旨を含む「大課・大係制」をしき行政意思決定の迅速化及び機動的効率的な執行を図っている

【主な公共施設】

国民健康保険病院、図書館、ライディングパーク、総合スポーツセンター、青少年会館、健康温水プールしかおい、陶芸工作館、介護予防センター、交流センターみないる、鹿追町民ホール、神田日勝記念美術館、トリムセンター、ワーキングセンター、自然体験留学センター、ピュアモルトクラブハウス、瓜幕活性化施設、広域総合交流促進施設、子育て支援センター、ひまわりセンター、道の駅しかおい、道の駅うりまく、環境保全センター、農業振興センター、経済観光交流館、うりまく夢創造館、自立生活支援センター、とかち鹿追ジオパーク会館、鹿追町国際交流センター平成館、鹿追町立認定こども園しかおい

【行政組織機構図】



# 新 得 町 しんとくちょう



人口（R2国調） 総数：5,817人 男：2,900人 女：2,917人  
 面積 1,063.79km<sup>2</sup>  
 役場所在地 北海道上川郡新得町3条南4丁目26番地  
 郵便番号 081-8501  
 電話番号 (0156)64-5111  
 ホームページ <http://www.shintoku-town.jp/>  
 Eメール [soumu@town.shintoku.hokkaido.jp](mailto:soumu@town.shintoku.hokkaido.jp)  
 市町村コード番号 016357  
 市町村類型 II-2  
 交通機関 石勝線新得駅から徒歩10分

## 【地 勢】

新得町は大雪山の南麓、十勝平野の最西部に位置し、面積1,063.79 km<sup>2</sup>と、東京都の約半分にあたる広さをもっており、総面積の87%が大雪山系を軸とする山林地域であり、道内最大の森林資源を蔵している。南部一帯は、十勝平野最西端で農耕地、酪農地として利用され、北部は豊富な森林資源と、トムラウシ温泉を中心とした観光資源に恵まれている。

## 【歴 史】

明治32年、山形県北村山郡高崎村（現在の山形県東根市）の有志、村山和十郎の指導のもと、村形三吉ら13戸が南新得に開墾の鋤を入れた。その後、両氏の同県人等300戸が佐幌川沿いに入植して開拓が進められた。明治40年に旭川、釧路間の鉄道が開通されると、狩勝峠を抱えている新得に鉄道諸施設が置かれ、また、警察署、保健所、畜産試験場などが設置され急速に市街地が形成されると同時に西十勝の行政センターとして発展した。農業については、豆作を主として発展してきたが、山麓地帯特有の地形、気象から近年小麦や根菜類を中心とした畑作、大規模な酪農経営や肉牛育成にも力を入れている。また、狩勝高原サホロリゾートスキー場をはじめとする狩勝高原一帯のレジャー施設、ラフティング・乗馬などの体験観光やトムラウシ温泉など観光客誘致にも力を入れている。

## 【町名の由来】

新得とは、アイヌ語で「シットク」といい、本来は「肘」の意味であるが、ここでは「山の突出部分」を指す。新得山が佐幌川の方に張り出している（突出している）地形を言い表したものとされている。

## 【町花・木・鳥】

区分	シンボル名	制定年月日
花	エゾムラサキツツジ	S47.7.20
樹木	エゾヤマザクラ	〃
鳥	エゾライチョウ	〃

## 【町章の意味】

町名を図案化し、両の手で支え、はぐくむ新得町の未来像を描いたものである。

## 【町政のあゆみ】

昭和 8 年 町制施行	平成 5 年 国民宿舎東大雪荘完成
〃 44 年 新庁舎完成	〃 6 年 山形県東根市と友好都市提携
〃 48 年 新得町公民館完成、町民憲章制定	〃 8 年 レディースファームスクール開校
〃 54 年 新得町開基80周年記念式典	〃 10 年 町営温水プール「ピーパー」オープン
〃 55 年 狩勝高原サホロ国際スキー場オープン	〃 11 年 健康福祉センター「なごみ」完成
〃 56 年 石勝線開通	〃 開拓100周年記念式典
〃 58 年 町制施行50周年記念式典	12 年 トムラウシ自然交流施設完成
〃 59 年 十勝ダム、佐幌ダム完成	〃 13 年 栄町団地の造成
〃 61 年 新得町下水道終末処理場完成	〃 14 年 高齢者介護予防拠点施設「ふれあい」オープン
〃 62 年 地中海クラブバカンス村オープン	〃 15 年 ごみ有料化実施
〃 63 年 株新得酒造公社完成	〃 17 年 新消防庁舎開庁
宮崎県五ヶ瀬町と姉妹都市提携	〃 18 年 サホロリゾート「ベアマウンテン」オープン
平成 元 年 新得町開基90周年記念式典	〃 21 年 開拓110周年記念式典
〃 2 年 特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘完成	〃 22 年 子どもセンター「なかよし」オープン
〃 3 年 トムラ登山学校レイク・イン完成	〃 25 年 新得中学校新校舎完成 戸籍電算化
〃 4 年 町公民館ふれあいホール完成	〃 30 年 屈足保育園新園舎完成
	令和 元 年 開拓120周年記念式典

【行政施策重点事項】

平成28年1月に策定された第8期総合計画に基づき「人が集い 賑わいと笑顔が広がり 未来につながるまち」を目指している。

(基本目標)

1. 町民が輝くパートナーシップによる活力のあるまちづくり
2. 共に暮らす輪の中で誰もが安心して暮らせる支え合いの社会づくり
3. 地域とつながり郷土が育む心豊かな人づくり
4. 町民が安心して活き活きと働ける賑わいのある産業づくり
5. 豊かな自然と快適な生活を送れる安らぎのある地域づくり

【行政管理の特色】

1. 事務処理の向上

平成9年度にOA機器の導入を行い、住民票等の窓口業務の他、各種業務においても年次計画で導入し、事務処理能力の向上を図っている。

2. 行政サービスの向上

行政事務改善委員会を設置し、新たな行政需要に対応するため組織としての連携を強化し、住民にわかりやすい組織と住民サービスの向上に努めている。

3. 職員の質の向上

平成29年に職員人材育成方針を策定し、多様化する町民ニーズに対応し、自主的・自立的な行政運営を推進するための研修等を実施している。

【主な公共施設】

新得町公民館、図書館、体育館、野球場、陸上競技場、陶芸センター、屈足総合会館、児童館、育成牧場、下水道終末処理場、総合体育館、武道館、温水プール、保健福祉センター、町立レディースファームスクール

【行政組織機構図】

